

- (質問4) あなたの就寝時間は、ほぼ一定していますか？  
1. はい 2. いいえ
- (質問5) あなたは、毎朝、朝食を食べていますか？  
1. ほとんど毎日食べている  
2. 時々食べる  
3. ほとんど食べない
- (質問6) あなたにとって、学校生活は次のどれですか？  
1. とても楽しい。  
2. どちらかといえば楽しい  
3. あまり楽しくない  
4. まったく楽しくない
- (質問7) あなたはクラブ活動（部活）に参加していますか？  
1. 積極的に参加している  
2. 消極的に参加している  
3. 参加していない
- (質問8) あなたは、夕食を週何回くらい家族全員で食べますか？  
1. ほとんど毎日 2. 5～6回 3. 4回前後 4. 3回前後 5. 2回前後  
6. ほとんど食べない
- (質問9) あなたは、母親と週何回くらい夕食を食べますか？  
1. ほとんど毎日 2. 5～6回 3. 4回前後 4. 3回前後 5. 2回前後  
6. ほとんど食べない 7. 母親がいない（死別、離婚、別居など）
- (質問10) あなたは、父親と週何回くらい夕食を食べますか？  
1. ほとんど毎日 2. 5～6回 3. 4回前後 4. 3回前後 5. 2回前後  
6. ほとんど食べない。 7. 父親がいない（死別、離婚、別居、たんしんみにん単身赴任など）
- (質問11) あなたは、あなたの家庭は「うまくいっている」と思いますか？  
1. うまくいっていると思う 2. どちらとも言えない 3. うまくいっていないと思う
- (質問12) あなたは、学校・塾・習い事・運動での時間以外、大人が不在の状態、毎日平均どの程度の時間を過ごしますか？  
1. なし、あるいは、ほとんどなし 2. 1時間未満 3. 1時間以上2時間未満  
4. 2時間以上3時間未満 5. 3時間以上
- (質問13) あなたは、親しく遊べる友人がいますか？ 1. いる 2. いない
- (質問14) あなたは、相談事のできる友人がいますか？ 1. いる 2. いない
- (質問15) あなたは、悩みごとがある時、親と相談する方だと思いますか？  
1. よく相談する方である 4. ほとんど相談しない方である  
2. どちらかと言えば相談する方である 5. 親がいない（死別・離婚・別居・単身赴任など）  
3. どちらかと言えば相談しない方である
- (質問16) あなたは、タバコを吸ってみたいと思ったことがありますか？ 1. ない 2. ある
- (質問17) あなたは、健康面から、喫煙をどう思いますか？  
1. 吸うべきではないと思う  
2. 少々ならかまわないと思う  
3. 全然かまわないと思う
- (質問18) あなたは、これまでに一回でも、タバコを吸ったことがありますか？  
(ある場合は、初めて吸った時の年齢を選んでください。)  
1. 吸ったことがない 2. 10歳以下 3. 11歳 4. 12歳 5. 13歳  
6. 14歳 7. 15歳以上 8. 吸ったことはあるが、年齢はおぼえていない
- (質問19) あなたは、この1年間で、タバコを吸ったことがありますか？

1. 吸ったことがない
2. 1年間で数回吸った
3. 月に数回吸った
4. 週に数回吸った
5. ほとんど毎日吸った

(質問20) 未成年者の喫煙は法律で禁じられていますが、あなたは未成年者の喫煙をどう思いますか？

1. 法律で禁じられているから、吸うべきでないと思う
2. 法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思う
3. 法律で禁じられてはいるが、全然かまわないと思う

(質問21) あなたは、未成年者の喫煙禁止をどう思いますか？

1. 当然だと思う
2. しかたのないことだと思う
3. 成人が吸えて、未成年者が吸えないのはおかしいと思う
4. そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う

(質問22) あなたは、これまでに一回でも、アルコール（ビール、日本酒、焼酎<sup>しょうちゅう</sup>、ワイン、ウイスキーなど）を飲んだことがありますか？（なめただけの場合は、含めないで下さい。）

（ある場合は、初めて飲んだ時の年齢を選んでください。）

1. 飲んだことがない
2. 10歳以下
3. 11歳
4. 12歳
5. 13歳
6. 14歳
7. 15歳以上
8. 飲んだことはあるが、年齢はおぼえていない

(質問23) あなたは、これまでに、下記の時に、一回でも、アルコールを飲んだことがありますか？

（いくつ選んでもけっこうですが、なめただけの場合は、含めないで下さい。ただし、「1」を選んだときには、その他は選ばないでください。）

1. 飲んだことがない
2. <sup>かんこんそうさい</sup>冠婚葬祭（<sup>そうしき</sup>結婚式・<sup>ほうじ</sup>祭り・<sup>ぼん</sup>葬式・<sup>ほん</sup>法事・<sup>ぼん</sup>盆・正月など）の時に飲んだことがある
3. 家で家族といっしょの時に飲んだことがある
4. その他の機会に、家族と飲んだことがある
5. クラス会、打ち上げ、友達とのパーティーの時に、仲間と飲んだことがある
6. その他の機会に、仲間と飲んだことがある
7. 一人で飲んだことがある

(質問24) あなたは、この1年間に一回でも、アルコールを飲んだことがありますか？

（いくつ選んでもけっこうですが、なめただけの場合は、含めないで下さい。ただし、「1」を選んだときには、その他は選ばないでください。）

1. 飲んだことがない
2. <sup>かんこんそうさい</sup>冠婚葬祭（<sup>そうしき</sup>結婚式・<sup>ほうじ</sup>祭り・<sup>ぼん</sup>葬式・<sup>ほん</sup>法事・<sup>ぼん</sup>盆・正月など）の時に飲んだことがある
3. 家で家族といっしょの時に飲んだことがある
4. その他の機会に、家族と飲んだことがある
5. クラス会、打ち上げ、友達とのパーティーの時に、仲間と飲んだことがある
6. その他の機会に、仲間と飲んだことがある
7. 一人で飲んだことがある

(質問25) 未成年者の飲酒は禁止されていますが、あなたは、未成年者の飲酒をどう思いますか？

1. 法律で禁止されているから、飲むべきではないと思う
2. 法律で禁止されてはいるが、時と場合に応じては、かまわないと思う
3. 法律で禁止されてはいるが、全然かまわないと思う

(質問26) あなたは、未成年者の飲酒禁止をどう思いますか？

1. 当然だと思う
2. しかたのないことだと思う

3. 成人が飲めて、未成年者が飲めないのはおかしいと思う
4. そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う

(質問27) あなたは、「シンナー遊び」をしているところを実際に見たことがありますか？

1. ない
2. ある

(質問28) あなたの身近に、「シンナー遊び」をしている人がいますか？

1. いない
2. いる

(質問29) あなたは、「シンナー遊び」に誘われたことがありますか？

1. ない
2. ある

(質問30) 「シンナー遊び」について、あなたの気持ちは次のどれに最も近いですか？

1. 関心がない
2. 見てみたい
3. 試してみたい
4. 経験がある

(質問31) あなたは、「シンナー遊び」をしている人について、どう思いますか？

1. 自分には無関係の人だと思う
2. 「シンナー遊び」をする気持ちが理解できる気がする
3. 親しみを感ずる

(質問32) あなたは、「シンナー遊び」をしている人と親しくなることについて、どう考えますか？

1. 親しくなりたくない
2. 「シンナー遊び」だけで決めたくはない
3. すでに親しい

(質問33) あなたは、これまでに一回でも、「シンナー遊び」を経験したことがありますか？

(ある場合は、初めて経験した時の年齢を選んでください。)

1. 経験がない
2. 10歳以下
3. 11歳
4. 12歳
5. 13歳
6. 14歳
7. 15歳以上
8. 経験はあるが、年齢はおぼえていない

(質問34) あなたは、この1年間に一回でも、「シンナー遊び」をしたことがありますか？

1. ない
2. ある

(質問35) 「シンナー遊び」は法律で禁止されていますが、あなたは「シンナー遊び」について、どう思いますか？

1. 法律で禁止されているから、すべきではないと思う
2. 法律で禁止されているが、少々ならかまわないと思う
3. 法律で禁止されているが、それを守る必要は全然ないと思う

(質問36) あなたは、法律で「シンナー遊び」を禁止しているのをどう思いますか？

1. 当然だと思う
2. しかたのないことだと思う
3. 麻薬・覚せい剤とちがって、シンナーくらい禁止しなくてもいいのではないかと思う
4. そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う

(質問37) あなたは、「シンナー遊び」で死亡すること（急性中毒死）があるのを知っていますか？

1. 知っている
2. 知らない

(質問38) あなたは、「シンナー遊び」を繰り返すと、歯がぼろぼろになりやすいことを知っていますか？

1. 知っている
2. 知らない

(質問39) あなたは、「シンナー遊び」を繰り返すと、手足の筋肉や神経が衰え、物をつかめなくなったり、歩けなくなること（多発神経炎）があるのを知っていますか？

1. 知っている
2. 知らない

(質問40) あなたは、「シンナー遊び」を繰り返すと、何もないのに物が見えたり（幻視）、実際には何も聞こえないのに、声が聞こえたり（幻聴）、誰も何とも思っていないのに、人が自分の事を非難していると思ひ込ん

だり(妄想)する状態(精神病状態)になることがあるのを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

(質問41) あなたは、「シンナー遊び」を繰り返すと、何事にも関心が持てなくなり、結果的に学校を欠席しがちになり、どんな仕事に就いても、長続きしなくなる(無動機症候群)を知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

(質問42) あなたは、「シンナー遊び」の結果、幻視、幻聴、妄想が出るようになってしまうと、それを治療して治っても、その後「シンナー遊び」をやめていても、疲れ・ストレス・飲酒などで、幻視、幻聴、妄想が再び出現すること(フラッシュバック)があるのを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

(質問43) あなたは、「シンナー遊び」をしている人たちは、どうして「シンナー遊び」するのだと思いますか？(いくつ選んでもけっこうです。)

1. 本人に問題があるから 2. 家庭に問題があるから  
3. 学校に問題があるから 4. 社会に問題があるから

(質問44) あなたは、これまでに一回でも、大麻(マリファナ、ハシッシ、ハッパも同じものです)を吸ったことがありますか？(ある場合は、初めて吸った時の年齢を選んでください。)

1. 経験がない 2. 10歳以下 3. 11歳 4. 12歳 5. 13歳 6. 14歳  
7. 15歳以上 8. 経験はあるが、年齢はおぼえていない

(質問45) あなたは、大麻を吸うことをどう思いますか？

1. 吸うべきでないと思う  
2. 麻薬・覚せい剤とちがって、少々ならかまわないと思う  
3. まったくかまわないと思う

(質問46) あなたは大麻を吸うと、上記の質問40や質問41と同じ精神病状態や無動機症候群になることがあるのを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

(質問47) あなたは、これまでに一回でも、覚せい剤を(スピード、エスも同じものです)使用したことがありますか？(ある場合は、初めて使用した時の年齢を選んでください。)

1. 経験がない 2. 10歳以下 3. 11歳 4. 12歳 5. 13歳 6. 14歳  
7. 15歳以上 8. 経験はあるが、年齢はおぼえていない

(質問48) 覚せい剤を使うと、上記の質問40と同じ精神病状態になりやすく、また質問42のようなフラッシュバックがあることを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

(質問49) あなたが「シンナー遊び」のために有機溶剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？

1. 簡単に手に入る 2. 少々苦勞するが、なんとか手に入る  
3. ほとんど不可能だ 4. 絶対不可能だ

(質問50) あなたが大麻を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？

1. 簡単に手に入る 2. 少々苦勞するが、なんとか手に入る  
3. ほとんど不可能だ 4. 絶対不可能だ

(質問51) あなたが覚せい剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？

1. 簡単に手に入る 2. 少々苦勞するが、なんとか手に入る  
3. ほとんど不可能だ 4. 絶対不可能だ

ご協力ありがとうございました。

## 薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査（要約版）

分担研究者 和田 清 国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部長  
研究協力者 中野良吾 同上 流動研究員  
尾崎米厚 国立公衆衛生院 疫学部 感染症室長  
勝野眞吾 兵庫教育大学 学校教育学部 教授

中学生における薬物乱用の広がり把握し、特に有機溶剤乱用に関する危険因子を特定することによって、中学生に対する薬物乱用防止対策の基礎資料として資するために、無作為で選ばれた全国208校の全生徒を対象に、薬物乱用に関する意識・実態調査を実施した。その結果、148校（対象校の71.2%）より、71,796人（対象校の全生徒の63.4%前後）の有効回答を得た。ただし、回答が得られなかった県が2県あり、都道府県毎の回答率には、未だ少々ばらつきがあることをふまえた上で、本調査の結果を利用する必要がある。

①男子では1.7%（1年生1.2%、2年生1.6%、3年生2.3%）、女子では0.9%（1年生0.9%、2年生0.8%、3年生1.1%）、全体では1.3%（1年生1.1%、2年生1.2%、3年生1.7%）の者が、これまでに有機溶剤乱用の経験があると回答した。これは、1996年に実施した第1回全国調査の結果よりは微増であった。

②しかし、有機溶剤乱用目撃率は、第1回調査よりやや減少しており、有機溶剤乱用に誘われたことのある率は同じで、身近に乱用者を知っている率は微増していた。

③一方、1990年から同種の調査を継続実施している千葉県では、男子での「誘われた」率が微増した以外は、生涯経験率も目撃率も乱用者を知っている率も、明らかに低下していた。

④したがって、総合的に判断した場合、わが国の中学生の有機溶剤乱用の広がりには、1996年と比べて、横這いであると解釈するのが妥当であろう。

⑤ただし、「少年非行等の概要（平成10年1～12月）」（警察庁生活安全局少年課）によれば、1998年のシンナー等の摂取・所持で補導した犯罪少年は、平成2年以来8年ぶりの増加となっており、今回の生涯経験率の微増は、その反映の可能性もあり、有機溶剤乱用の動向には、これまで以上に注意が必要である。

⑥有機溶剤乱用経験者群（以下、経験者群）では、非経験者群に比べて、日常生活の規則性、学校生活、家庭生活、友人関係において、好ましくない

傾向が有意差を持って強いことが再確認された。

⑦その背景には、家庭生活のあり方が大きく影響していると考えられる。経験者群では、「親との相談頻度」「家族との夕食頻度」が有意に低く、逆に「大人不在での時間」が有意に長く、家庭は「うまくいっていない」を選んだ者が有意に多かった。

⑧結局、経験者群は、総体的にみれば、家庭にも、学校にもなじみず、友人関係も希薄な中学生たちが多く、「居場所のない子供たち」と推定することができよう。

⑨また、中学生における喫煙と大人が同伴しない飲酒は、有機溶剤乱用と強い繋がりを持っており、有機溶剤乱用への「ゲイトウェイ」となっている可能性が強く示唆された。

⑩有機溶剤乱用による医学的害については、「歯の腐食」、「無動機症候群」、「フラッシュバック」についての知識は、男女共に、経験者群の方が知っているという結果であり、「知識」と「行動」の不一致を改めて確認する結果となった。

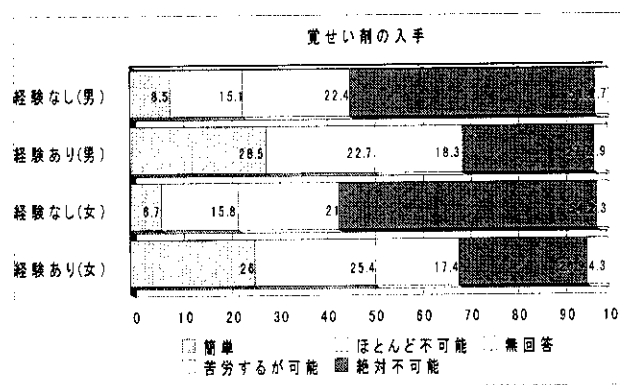
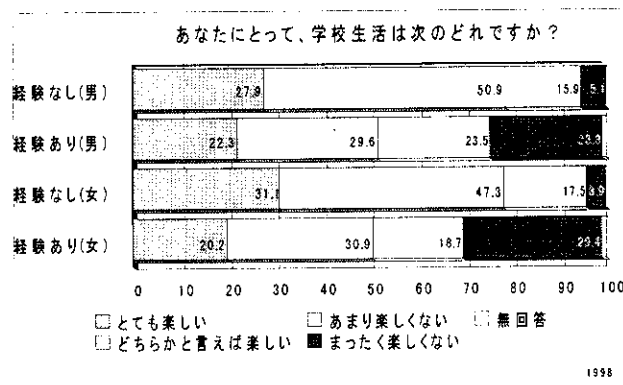
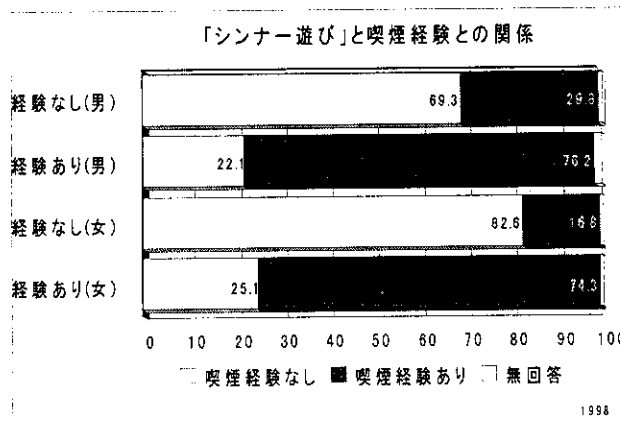
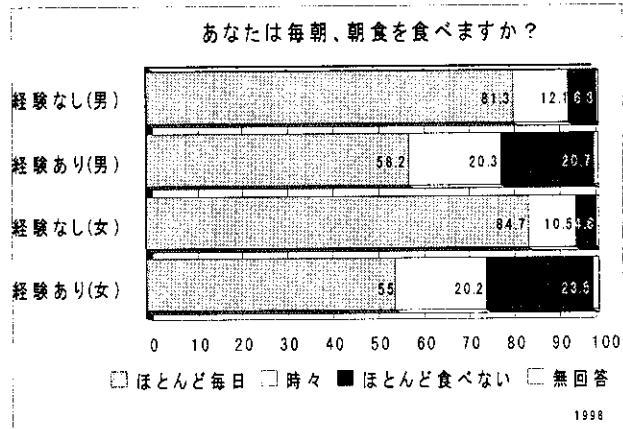
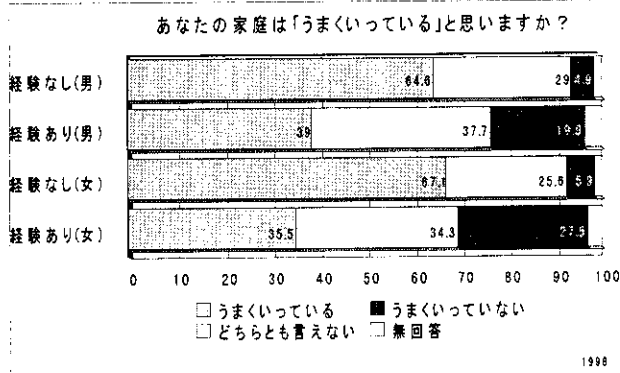
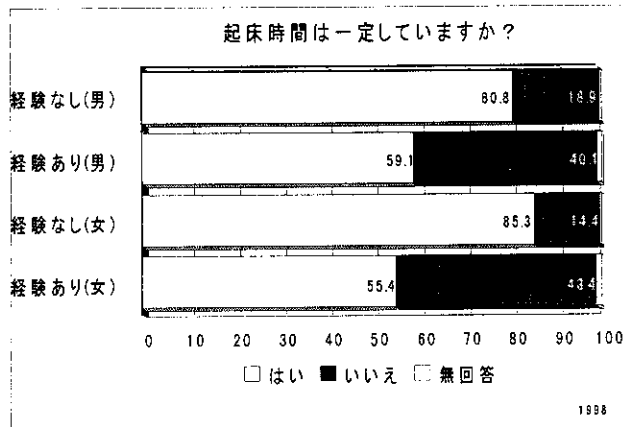
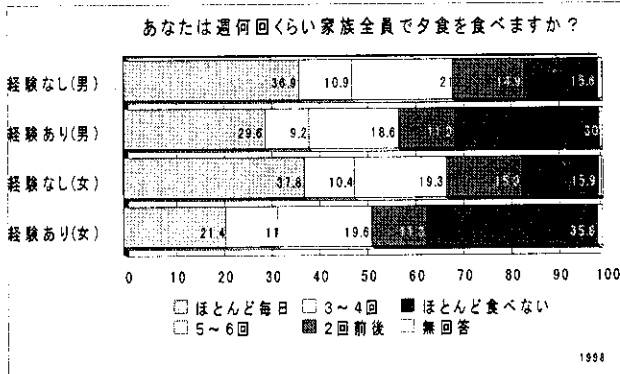
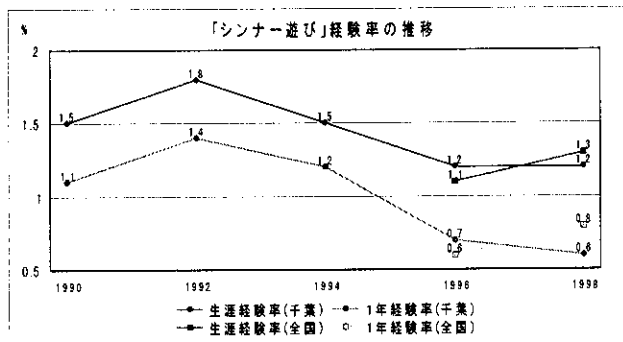
⑪大麻の生涯経験率は、男子で0.9%、女子で0.5%、全体で0.7%であり、覚せい剤の生涯経験率は、男子で0.7%、女子で0.3%、全体で0.5%であった。これらは、第1回調査よりは微増を示しているが、数字自体が無回答の者の割合よりも低く、積極的に論じることはできない。

⑫違法性薬物の入手可能性については、経験者群では、大麻でも覚せい剤も、「手に入る」を選んだ者が男女共に50%強であったことは、第3次覚せい剤乱用期を象徴するような結果であった。

⑬法の遵守については、喫煙に関しては非喫煙群全体の12%の者が「少々ならかまわない」を選んでいるのに対して、有機溶剤乱用については、それを選んだ者は非経験者群全体の4.1%に過ぎず、大麻では非経験者全体の2.4%であったことは、同じ依存性薬物と言えども、有機溶剤・大麻乱用への垣根は高いことを物語っている。しかし、有機溶剤乱用の経験と大麻・覚せい剤乱用の経験と

には、強い結びつきが認められ、大麻・覚せい剤乱用への「ゲイトウェイ」としての有機溶剤乱用

の持つ意味が強く示唆された。



分担研究報告書  
(1-2)

## 分担研究報告書

### 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査

分担研究者	尾崎 茂	国立精神・神経センター精神保健研究所
研究協力者	和田 清 福井 進	国立精神・神経センター精神保健研究所 三芳病院

**研究要旨** 日本における薬物関連精神疾患の実態と動向を把握するために、全国の精神科病床を有する医療施設 1,648 施設を対象に、1998 年 9 月、10 月の 2 ヶ月間に診療を受けた薬物関連精神疾患患者の実態調査を郵送法により施行した。回答は 835 施設 (50.7%) から得られ、該当症例は 910 症例であった。このうち覚せい剤症例が 437 例 (48.0%) と最も多く、次いで有機溶剤症例が 232 例 (25.5%) であり、両薬物で全体の 73.5% を占め、依然として精神医療の現場においてもこれらが主要な乱用薬物であることが確認された。覚せい剤症例においては、前回調査に比較して症例全体に占める割合がやや減少し、また初期乱用者の明らかな増加はみられなかったことなどから、一般社会での覚せい剤乱用の拡大が精神医療の現場にまで大きな影響を与えているとは、今回の調査では明らかにはいえなかった。しかし、覚せい剤乱用によってもたらされる深刻な精神医学的障害や社会的障害、また若年者における覚せい剤乱用の潜在的な拡大を念頭におきつつ、引き続き十分な注意を要すると思われた。有機溶剤症例においては、低年齢での喫煙・飲酒および薬物乱用の開始、乱用の長期化がみられるとともに、低年齢で依存症候群を高頻度に呈することや、残遺性障害および遅発性精神病性障害についても低年齢で呈することから、強い依存形成と精神病惹起作用がうかがわれ、とくに若年の有機溶剤乱用問題は引き続き重要な問題であると考えられた。大麻は主たる使用薬物としてはわずかであったが、潜在的乱用の拡大については今後も注意が必要であることを指摘した。このほか乱用薬物の多様化・多剤併用の傾向も引き続きみられ、いずれの薬物においても長期乱用の傾向がみられるとともに、精神医学的あるいは社会的機能の深刻な障害がみられる例が少なくなかった。

#### A. 研究目的

近年、社会における薬物乱用の拡大が一層深刻な問題として受け止められつつある。とくに覚せい剤については第三次乱用期に突入したといわれており、また有機溶剤乱用の問題も依然として楽観視できない状況である。このような依存性薬物の乱用者および依存・中毒者に対する対策を考える上では、まずその実態を把握するために多面的な疫学研究が必要である。乱用される依存性薬物はかなりの頻度で精神医学的な障害を惹起する可能性があるため、精神科医療施設における薬物関連精神疾患患者の実態は、社会での乱用・依存を鋭敏に反映すると考えられる。これまでに、全国の精神科医療施設における実態調査は 1987 年より福井らにより実施されてきており、その実態把握及びさまざまな対

策を考える上で、貴重な資料を提供してきた。今年度も 1996 年度に引き続き、全国の精神科病床を有する医療施設を対象に、精神科医療の現場における薬物関連精神疾患患者の実態を把握することを目的として実態調査を施行した。

#### B. 研究方法

##### 1) 対象施設

調査対象施設は、日本全国の精神科病床を有する医療施設であり、施設の抽出は 1997 年度病院要覧<sup>1)</sup> によった。その内訳は、国立病院・療養所 48 施設、自治体病院 143 施設 (都道府県立病院 69 施設、市町村立病院 74 施設)、国公立・私立大学医学部附属病院 83 施設、そして民間精神病院 1,374 施設の計 1,648 施設である。



## 2) 方法

### (1) 対象症例および調査期間

対象症例は、アルコール以外の薬物を主たる使用薬物とする薬物関連精神疾患患者である。調査期間は1998年9月1日から10月31日までの2ヶ月間で、この期間に調査対象施設において、入院あるいは外来で、新規にあるいは継続して診療を受けた薬物関連精神疾患患者である。

### (2) 調査用紙の発送および回収

調査対象施設に対して、1998年7月にあらかじめ調査の趣旨と方法を葉書により通知して本調査への協力を依頼した。さらに、8月下旬に依頼文書ならびに調査用紙一式を郵送して、上記条件(1)を満たす薬物関連精神疾患患者全症例について担当医師に調査用紙への回答を求めた。調査用紙回収の期限は1998年11月末日とした。回収期限前後にその時点で未回答の調査対象施設宛に再度本調査への協力要請の葉書を送付するとともに、必要に応じて電話・FAXによる回答の確認等の作業を行った。

### (3) 「主たる使用薬物」の定義

該当症例の「主たる使用薬物」は、調査用紙<sup>資料)</sup>の質問項目「11) 受診の原因となった薬物」

において、記載した医師によって臨床的に選択された薬物とした。

この場合、複数の薬物を併用している症例については、症状形成により大きな役割を果たしていると考えられた「主たる使用薬物」1剤の選択を記載医師に要請した。下記に示した分類の「(a) 覚せい剤～(h) その他」にあたる。

また、複数の薬物が同程度に症状形成に関与しており、主たる薬物を1剤に決定することが困難な場合は、同質問項目においては複数の薬物の選択とし、「主たる使用薬物」は当該複数の薬物とした。さらにそこで複数選択された「主たる使用薬物」に規制薬物が含まれないものを「多剤(L)」(L: Legal)、含まれるものを「多剤(IL)」(IL: Illegal)として分類した。したがって本報告書では「主たる使用薬物」については以下のような(a)～(j)の分類とした。

- (a) 覚せい剤 (本報告書では「覚せい剤症例」と呼ぶ。以下同様)
- (b) 有機溶剤 (「有機溶剤症例」)
- (c) 睡眠薬 (「睡眠薬症例」)
- (d) 抗不安薬 (「抗不安薬症例」)
- (e) 鎮痛薬 (「鎮痛薬症例」)
- (f) 鎮咳薬 (「鎮咳薬症例」)
- (g) 大麻 (「大麻症例」)
- (h) その他 (「その他症例」)
- (i) 多剤(L) (「多剤(L)症例」)
- (j) 多剤(IL) (「多剤(IL)症例」)

表1 精神科医療施設の種別と回収状況

精神科医療施設の種別	対象施設		回答のあった施設数と症例の有無・症例数							
			回答あり		症例あり		症例なし			
	施設数	(%)	施設数	(%)	施設数	(%)		症例数	(%)	施設数
国立病院・療養所	48	(2.9)	35	(72.9)	18	(37.5)	110	(12.1)	17	(35.4)
自治体立病院										
都道府県立病院	69	(4.2)	54	(78.3)	33	(47.8)	157	(17.3)	21	(30.4)
市町村立病院	74	(4.5)	41	(55.4)	12	(16.2)	32	(3.5)	29	(39.2)
大学医学部附属病院	83	(5.0)	66	(79.5)	30	(36.1)	60	(6.6)	36	(43.4)
民間病院	1374	(83.4)	639	(46.5)	182	(13.2)	551	(60.5)	457	(33.3)
総数	1648	(100.0)	835	(50.7)	275	(16.7)	910	(100.0)	560	(34.0)

## C. 結果

### 1) 回答状況

#### (1) 対象施設の種別による回答状況 (表1)

全国の精神科病床を有する医療施設 1,648 施設に調査用紙を送付し、835 施設 (50.7%) より回答を得た。このうち 275 施設 (16.7%) より計 910 症例の有効該当症例が報告された。「該当症例なし」の回答は 560 施設より得られた。施設別の内訳は表1に示した通りであり、国立病院・療養所、都道府県立病院、国公立・私立大学医学部附属病院精神科からはそれぞれ 70%を超える高い回答率が得られた。

#### (2) 主たる使用薬物別にみた症例数 (表2)

910 症例の内訳は、「覚せい剤症例」が 437 例で報告症例全体の 48.0%と最も高い割合を占めた。「有機溶剤症例」が 232 例 (25.5%) とこれに次ぎ、両薬物合わせて症例全体の 73.5%を占めた。このほか、「睡眠薬症例」、「多剤 (L) 症例」、「多剤 (IL) 症例」が 5~7%前後の割合であった。なお、「その他症例」における使用薬物は、リタリンが 3 例と最も多く、そのほかヘロイン、抗パーキンソン薬 (ピペリデン)、LSD、抗精神病薬 (クロルプロマジン、レヴオメプロマジン)、抗てんかん薬 (カルバマゼピン)、総合感冒薬等であった。

表2 主たる使用薬物別の症例数

主たる使用薬物	症例数	(%)
覚せい剤	437	(48.0)
有機溶剤	232	(25.5)
睡眠薬	56	(6.2)
抗不安薬	12	(1.3)
鎮痛薬	20	(2.2)
鎮咳薬	25	(2.7)
大麻	10	(1.1)
その他	14	(1.5)
多剤		
多剤 (L)	61	(6.7)
多剤 (IL)	43	(4.7)
計	910	(100.0)

#### (3) 性別・年齢の分布 (表3)

性比では、「覚せい剤症例」、「有機溶剤症例」、「鎮咳薬症例」、「大麻症例」、「多剤 (IL) 症例」で男性の比率が高かった。これに対して、「睡眠薬症例」、「多剤 (L) 症例」では男女比は接近し、「抗不安薬症例」、「鎮痛薬症例」ではむしろ女性の比率が高かった。

年齢分布からは、「有機溶剤症例」、「鎮咳薬症例」、「大麻症例」などで概ね 20 歳~30 歳代前半にかけて分布のピークがみられたのに対して、「睡眠薬症例」、「鎮痛薬症例」、「多剤 (L) 症例」ではより高年齢層に分布していた。「覚せい剤症例」では 20 歳代後半~30 歳代後半に分布していた。平均年齢では、「有機溶剤症例」、「鎮咳薬症例」、「大麻症例」が 29 歳前後と最も低く、「鎮痛薬症例」、「睡眠薬症例」、「その他症例」で 40 歳代中盤と高かった。「覚せい剤症例」では平均 35.8 歳でこれらの中間であった。

#### (4) 最終学歴 (表4)

「覚せい剤症例」、「有機溶剤症例」、「多剤 (IL) 症例」では、中学校以下の割合が約 1/3 と高かった。また、「覚せい剤症例」、「有機溶剤症例」では、中学校または高等学校在学中の生徒も数例みられた。一方、「睡眠薬症例」、「その他症例」では大学卒業者が 20%程度おり、高学歴者の割合が比較的高かった。

#### (5) 職業 (表5)

薬物乱用開始前および乱用開始後の職業について表5に示す。使用前には、全体的には土木建築業関係および無職の割合が比較的高く、「覚せい剤症例」、「有機溶剤症例」で特にこの傾向がみられた。「有機溶剤症例」では風俗営業関係も高かった。「睡眠薬症例」、「抗不安薬症例」、「鎮痛薬症例」では、一般の会社員や主婦の割合が比較的高かった。乱用開始後には無職の割合が各症例とも高くなった。主たる薬物別に無職の割合について乱用開始前・後の比を算出すると、「覚せい剤症例」で 3.8 倍、「有機溶剤症例」7.0 倍、「睡眠薬症例」5.5 倍、「鎮咳薬症例」10.0 倍、「大麻症例」6.0 倍、「その他症例」2.0 倍、「多剤 (L) 症例」7.7 倍、「多剤 (IL) 症例」7.0 倍であり、症例全体では 5.0 倍であった。このように薬物使用に伴い、深刻な社会的機能の障害がうかがわれた。

表3 主たる使用薬物別にみた性別・年齢の分布

総症例数	覚せい剤 (437例)	有機溶剤 (232例)	睡眠薬 (56例)	抗不安薬 (12例)	鎮痛薬 (20例)	鎮咳薬 (25例)	大麻 (10例)	その他 (14例)	多剤 (I) (61例)	多剤 (II) (43例)
性別										
男性	318 (72.8)	195 (84.1)	29 (51.8)	5 (41.7)	9 (45.0)	20 (80.0)	7 (70.0)	8 (57.1)	31 (50.8)	37 (86.0)
女性	119 (27.2)	37 (15.9)	27 (48.2)	7 (58.3)	11 (55.0)	5 (20.0)	3 (30.0)	6 (42.9)	30 (49.2)	6 (14.0)
年齢構成										
≤14	0	2 (0.9)	0	0	0	0	0	0	0	0
15~19	5 (1.1)	31 (13.4)	0	1 (8.3)	1 (5.0)	0	1 (10.0)	0	1 (1.6)	1 (2.3)
20~24	61 (14.0)	40 (17.2)	3 (5.4)	0	0	4 (16.0)	2 (20.0)	1 (7.1)	1 (1.6)	7 (16.3)
25~29	77 (17.6)	64 (27.6)	7 (12.5)	2 (16.7)	2 (10.0)	11 (44.0)	3 (30.0)	1 (7.1)	12 (19.7)	16 (37.2)
30~34	76 (17.4)	44 (19.0)	9 (16.1)	3 (25.0)	0	7 (28.0)	1 (10.0)	2 (14.3)	11 (18.0)	8 (18.6)
35~39	71 (16.2)	23 (9.9)	9 (16.1)	1 (8.3)	3 (15.0)	2 (8.0)	2 (20.0)	3 (21.4)	8 (13.1)	6 (14.0)
40~44	48 (11.0)	17 (7.3)	5 (8.9)	0	2 (10.0)	1 (4.0)	0	0	6 (9.8)	2 (4.7)
45~49	42 (9.6)	9 (3.9)	5 (8.9)	2 (16.7)	3 (15.0)	0	1 (10.0)	1 (7.1)	6 (9.8)	1 (2.3)
50~54	34 (7.8)	0	2 (3.6)	1 (8.3)	4 (20.0)	0	0	1 (7.1)	9 (14.8)	0
55~59	10 (2.3)	0	4 (7.1)	0	1 (5.0)	0	0	2 (14.3)	1 (1.6)	2 (4.7)
60~64	8 (1.8)	1 (0.4)	4 (7.1)	1 (8.3)	3 (15.0)	0	0	2 (14.3)	4 (6.6)	0
65~69	3 (0.7)	0	5 (8.9)	0	0	0	0	1 (7.1)	1 (1.6)	0
70~74	0	0	0	1 (8.3)	0	0	0	0	1 (1.6)	0
75≤	0	0	2 (3.6)	0	1 (5.0)	0	0	0	0	0
(不明)	2 (0.5)	1 (0.4)	1 (1.8)	0	0	0	0	0	0	0
平均年齢	35.8±10.6	28.6±8.2	43.2±14.7	40.8±16.2	46.6±14.2	28.5±5.0	29.0±8.6	44.8±13.9	40.4±12.5	30.4±8.5

表4 薬物使用者の最終学歴

		主たる使用薬物										計 (%)
		覚せい剤 症例数(%)	有機溶剤 症例数(%)	睡眠薬 症例数(%)	抗不安薬 症例数(%)	鎮痛薬 症例数(%)	鎮咳薬 症例数(%)	大麻 症例数(%)	その他 症例数(%)	多剤(L) 症例数(%)	多剤(IL) 症例数(%)	
小学校	在学中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中退	0	0	1 (1.8)	0	0	0	0	0	0	0	1 (0.1)
	卒業	2 (0.5)	0	2 (3.6)	1 (8.3)	0	0	0	1 (7.1)	1 (1.6)	0	7 (0.8)
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中学校	在学中	0	7 (3.0)	0	0	0	0	0	0	0	0	7 (0.8)
	中退	2 (0.5)	1 (0.4)	0	0	0	0	0	0	0	0	3 (0.3)
	卒業	157 (35.9)	89 (38.4)	7 (12.5)	0	3 (15.0)	2 (8.0)	3 (30.0)	1 (7.1)	12 (19.7)	16 (37.2)	290 (31.9)
	不明	6 (1.4)	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (2.3)	7 (0.8)
高校	在学中	3 (0.7)	10 (4.3)	0	0	1 (5.0)	0	0	0	0	0	14 (1.5)
	中退	99 (22.7)	67 (28.9)	5 (8.9)	3 (25.0)	3 (15.0)	5 (20.0)	1 (10.0)	1 (7.1)	9 (14.8)	14 (32.6)	207 (22.7)
	卒業	70 (16.0)	34 (14.7)	14 (25.0)	5 (41.7)	6 (30.0)	10 (40.0)	3 (30.0)	4 (28.6)	12 (19.7)	3 (7.0)	161 (17.7)
	不明	4 (0.9)	1 (0.4)	0	0	1	0	0	0	0	1 (2.3)	7 (0.8)
専門学校	在学中	1 (0.2)	1 (0.4)	0	0	0	0	0	0	0	0	2 (0.2)
	中退	8 (1.8)	4 (1.7)	2 (3.6)	0	0	2 (8.0)	1 (10.0)	0	0	2 (4.7)	19 (2.1)
	卒業	17 (3.9)	8 (3.4)	6 (10.7)	1 (8.3)	1 (5.0)	4 (16.0)	0	0	9 (14.8)	0	46 (5.1)
	不明	2 (0.5)	0	0	0	0	0	0	0	1 (1.6)	0	3 (0.3)
短大	在学中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中退	1 (0.2)	2 (0.9)	0	0	0	0	0	0	1 (1.6)	0	4 (0.4)
	卒業	4 (0.9)	0	0	0	2 (10.0)	0	0	0	0	0	6 (0.7)
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学	在学中	1 (0.2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (0.1)
	中退	6 (1.4)	2	0	0	0	0	0	1 (7.1)	1 (1.6)	1 (2.3)	11 (1.2)
	卒業	7 (1.6)	2 (0.9)	11 (19.6)	1 (8.3)	2 (10.0)	3 (12.0)	1 (10.0)	3 (21.4)	7 (11.5)	2 (4.7)	39 (4.3)
	不明	0	0	0	0	0	0	1 (10.0)	0	0	0	1 (0.1)
不明		47 (10.8)	4 (1.7)	8 (14.3)	1 (8.3)	1 (5.0)	0	0	3 (21.4)	8 (13.1)	3 (7.0)	75 (8.2)
計		437 (100.0)	232 (100.0)	56 (100.0)	12 (100.0)	20 (100.0)	25 (100.0)	10 (100.0)	14 (100.0)	61 (100.0)	43 (100.0)	910 (100.0)

表5 薬物使用前および現在の職業

主たる使用薬物 薬物使用前/後	覚せい剤(437例)		有機溶剤(232例)		睡眠薬(56例)		抗不安薬(12例)		鎮痛薬(20例)		鎮咳薬(25例)		大麻(10例)		その他(14例)		多剤(L)(61例)		多剤(IL)(43例)		合計		
	前 (%)	後 (%)	前 (%)	後 (%)	前 (%)	後 (%)	前 (%)	後 (%)	前 (%)	後 (%)	前 (%)	後 (%)	前 (%)	後 (%)	前 (%)	後 (%)	前 (%)	後 (%)	前 (%)	後 (%)	前 (%)	後 (%)	
1 農林漁業	6 (1.4)	3 (0.7)	1 (0.4)	1 (0.4)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7 (0.8)	4 (0.4)	
2 商人(卸・小売り)	5 (1.1)	4 (0.9)	3 (1.3)	0	1 (1.8)	1 (1.8)	0	0	0	0	0	0	1 (10.0)	0	0	0	2 (3.3)	2 (3.3)	0	0	12 (1.3)	7 (0.8)	
3 不動産業	1 (0.2)	1 (0.2)	0	1 (0.4)	3 (5.4)	1 (1.8)	0	0	0	0	1 (4.0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5 (0.5)	3 (0.3)	
4 金融業	1 (0.2)	1 (0.2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (10.0)	0	0	0	0	0	0	0	2 (0.2)	1 (0.1)	
5 自営の職人	4 (0.9)	6 (1.4)	5 (2.2)	3 (1.3)	1 (1.8)	1 (1.8)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10 (1.1)	10 (1.1)	
6 露店・行商	2 (0.5)	3 (0.7)	0	0	1 (1.8)	1 (1.8)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3 (0.3)	4 (0.4)	
7 その他の自営業	11 (2.5)	10 (2.3)	1 (0.4)	3 (1.3)	1 (1.8)	0	0	0	0	0	1 (4.0)	1 (4.0)	0	0	0	1 (7.1)	3 (4.9)	1 (1.6)	1 (2.3)	1 (2.3)	18 (2.0)	17 (1.9)	
8 団体役員	0	0	0	0	1 (1.8)	1 (1.8)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 (3.3)	1 (1.6)	0	0	3 (0.3)	2 (0.2)	
9 会社員	13 (3.0)	5 (1.1)	1 (0.4)	2 (0.9)	10 (17.9)	5 (8.9)	0	0	2 (10.0)	1 (5.0)	2 (8.0)	1 (4.0)	2 (20.0)	0	2 (14.3)	0	8 (13.1)	2 (3.3)	1 (2.3)	0	41 (4.5)	16 (1.8)	
10 店員	18 (4.1)	4 (0.9)	3 (1.3)	0	2 (3.6)	1 (1.8)	1 (8.3)	0	1 (5.0)	0	0	0	1 (10.0)	1 (10.0)	0	0	1 (1.6)	2 (3.3)	3 (7.0)	1 (2.3)	30 (3.3)	9 (1.0)	
11 工具	21 (4.8)	7 (1.6)	12 (5.2)	3 (1.3)	1 (1.8)	1 (1.8)	1 (8.3)	1 (8.3)	1 (5.0)	0	1 (4.0)	1 (4.0)	0	0	0	0	0	0	2 (4.7)	0	39 (4.3)	13 (1.4)	
12 公務員	1 (0.2)	0	1 (0.4)	0	0	0	1 (8.3)	0	2 (10.0)	2 (10.0)	2 (8.0)	2 (8.0)	0	0	0	0	3 (4.9)	2 (3.3)	0	(0.0)	0	10 (1.1)	6 (0.7)
13 風俗営業関係者	29 (6.6)	9 (2.1)	2 (0.9)	3 (1.3)	1 (1.8)	1 (1.8)	0	0	0	0	1 (4.0)	0	1 (10.0)	0	0	0	2 (3.3)	0	1 (2.3)	1 (2.3)	37 (4.1)	14 (1.5)	
14 風俗営業以外の飲食業関係者	14 (3.2)	9 (2.1)	4 (1.7)	2 (0.9)	2 (3.6)	1 (1.8)	0	0	1 (5.0)	0	0	0	0	0	2 (14.3)	0	4 (6.6)	1 (1.6)	1 (2.3)	1 (2.3)	28 (3.1)	14 (1.5)	
15 興業関係者	0	1 (0.2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 (4.7)	0	2 (0.2)	1 (0.1)	
16 旅館業関係者	1 (0.2)	0	0	0	0	0	0	0	1 (5.0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 (0.2)	0 (0.0)	
17 交通運輸業関係者	23 (5.3)	9 (2.1)	4 (1.7)	2 (0.9)	1 (1.8)	0	0	0	1 (5.0)	1 (5.0)	1 (4.0)	0	0	0	0	0	1 (1.6)	0	1 (2.3)	1 (2.3)	32 (3.5)	13 (1.4)	
18 土木建築業関係者	56 (12.8)	23 (5.3)	27 (11.6)	13 (5.6)	1 (1.8)	1 (1.8)	1 (8.3)	1 (8.3)	0	0	2 (8.0)	1 (4.0)	0	0	0	1 (7.1)	3 (4.9)	1 (1.6)	5 (11.6)	4 (9.3)	95 (10.4)	45 (4.9)	
19 日雇い労働者	7 (1.6)	6 (1.4)	3 (1.3)	1 (0.4)	0	0	1 (8.3)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (1.6)	1 (1.6)	0	1 (2.3)	12 (1.3)	9 (1.0)	
20 その他の被雇用者	4 (0.9)	11 (2.5)	2 (0.9)	2 (0.9)	3 (5.4)	0	1 (8.3)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (1.6)	2 (3.3)	0	0	11 (1.2)	15 (1.6)	
21 医療業関係者	4 (0.9)	1 (0.2)	2 (0.9)	2 (0.9)	5 (8.9)	3 (5.4)	1 (8.3)	0	2 (10.0)	1 (5.0)	0	0	0	0	1 (7.1)	0	5 (8.2)	3 (4.9)	1 (2.3)	0	21 (2.3)	10 (1.1)	
22 芸能関係者	2 (0.5)	1 (0.2)	1 (0.4)	0	1 (1.8)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (1.6)	1 (1.6)	0	0	5 (0.5)	2 (0.2)	
23 船員	0	0	1 (0.4)	1 (0.4)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (0.1)	1 (0.1)	
24 小学生	0	0	2 (0.9)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (2.3)	0	3 (0.3)	0 (0.0)	
25 中学生	30 (6.9)	0	80 (34.5)	6 (2.6)	1 (1.8)	0	0	0	1 (5.0)	0	1 (4.0)	0	2 (20.0)	0	0	0	3 (4.9)	0	7 (16.3)	0	125 (13.7)	6 (0.7)	
26 高校生	22 (5.0)	3 (0.7)	27 (11.6)	9 (3.9)	0	0	1 (8.3)	0	1 (5.0)	1 (5.0)	2 (8.0)	0	0	0	0	0	3 (4.9)	0	5 (11.6)	0	61 (6.7)	13 (1.4)	
27 大学生	3 (0.7)	1 (0.2)	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (4.0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4 (0.4)	1 (0.1)	
28 各種学校生	2 (0.5)	1 (0.2)	2 (0.9)	0	0	0	0	0	0	0	4 (16.0)	0	0	0	0	0	1 (1.6)	0	1 (2.3)	0	10 (1.1)	1 (0.1)	
29 主婦	7 (1.6)	21 (4.8)	3 (1.3)	7 (3.0)	7 (12.5)	12 (21.4)	2 (16.7)	2 (16.7)	4 (20.0)	3 (15.0)	2 (8.0)	3 (12.0)	0	0	1 (7.1)	1 (7.1)	5 (8.2)	9 (14.8)	0	0	31 (3.4)	58 (6.4)	
30 家事手伝い	4 (0.9)	5 (1.1)	0	0	2 (3.6)	0	0	0	0	0	0	1 (4.0)	1 (10.0)	2 (20.0)	0	0	0	0	0 (0.0)	1 (2.3)	7 (0.8)	9 (1.0)	
31 無職	65 (14.9)	250 (57.2)	20 (8.6)	139 (59.9)	4 (7.1)	22 (39.3)	0	7 (58.3)	0	0	9 (45.0)	1 (4.0)	10 (40.0)	1 (10.0)	6 (60.0)	2 (14.3)	4 (28.6)	3 (4.9)	23 (37.7)	4 (9.3)	28 (65.1)	100 (11.0)	498 (54.7)
32 不定	10 (2.3)	6 (1.4)	6 (2.6)	8 (3.4)	0	1 (1.8)	0	0	0	0	1 (4.0)	0	0	0	0	0	1 (1.6)	2 (3.3)	1 (2.3)	0	19 (2.1)	17 (1.9)	
33 不明	53 (12.1)	8 (1.8)	7 (3.0)	3 (1.3)	4 (7.1)	1 (1.8)	2 (16.7)	1 (8.3)	1 (5.0)	0	0	0	0	1 (10.0)	4 (28.6)	4 (28.6)	4 (6.6)	1 (1.6)	4 (9.3)	1 (2.3)	79 (8.7)	20 (2.2)	
34 その他	4 (0.9)	1 (0.2)	1 (0.4)	3 (1.3)	0	0	0	0	0	1 (5.0)	0	0	0	0	2 (14.3)	2 (14.3)	0	0	1 (2.3)	0	8 (0.9)	7 (0.8)	
記載なし	14 (3.2)	27 (6.2)	11 (4.7)	18 (7.8)	3 (5.4)	2 (3.6)	0	0	2 (10.0)	1 (5.0)	2 (8.0)	5 (20.0)	0	0	0	1 (7.1)	4 (6.6)	7 (11.5)	1 (2.3)	3 (7.0)	37 (4.1)	64 (7.0)	
	437 (100.0)	437 (100.0)	232 (100.0)	232 (100.0)	56 (100.0)	56 (100.0)	12 (100.0)	12 (100.0)	20 (100.0)	20 (100.0)	25 (100.0)	25 (100.0)	10 (100.0)	10 (100.0)	14 (100.0)	14 (100.0)	61 (100.0)	61 (100.0)	43 (100.0)	43 (100.0)	910 (99.9)	910 (99.9)	

(6) 暴力団との関係 (表6)

薬物乱用前には、全体で約 1/5、「覚せい剤症例」で約 1/3 が暴力団との関係をもっており、次いで「多剤 (IL) 症例」、「大麻症例」で 20%前後にみられた。その他の症例群ではほとんど関係がみられなかった。

乱用開始後では、約 3/4 が関係がないとの回答であったが、「覚せい剤症例」では 7.8%に暴力団との継続した関係がみられた。

(7) 非行グループとの関係 (表7)

薬物乱用前には、全体で 40%近くの症例が非行グループとの関係があり、とくに「有機溶剤症例」で 54.3%と半数を超える高い割合を示し、「大麻症例」、「多剤 (IL) 症例」、「覚せい剤症例」も 50%前後とこれに次いで高かった。

乱用開始後では、非行グループとの関係が継続している症例は全体の 10%以下と減少したが、「大麻症例」、「有機溶剤症例」、「多剤 (IL) 症例」では 10%を超えていた。

表6 主たる薬物別にみた暴力団との関係

主たる薬物別症例	薬物乱用前			薬物乱用後			
	あり 例数 (%)	なし 例数 (%)	不明 例数 (%)	過去にあったが			
				現在もあり 例数 (%)	現在はなし 例数 (%)	なし 例数 (%)	不明 例数 (%)
覚せい剤 (437例)	157 (35.9)	153 (35.0)	127 (29.1)	34 (7.8)	143 (32.7)	138 (31.6)	122 (27.9)
有機溶剤 (232例)	21 (9.1)	165 (71.1)	46 (19.8)	7 (3.0)	28 (12.1)	154 (66.4)	43 (18.5)
睡眠薬 (56例)	2 (3.6)	37 (66.1)	17 (30.4)	2 (3.6)	0	38 (67.9)	16 (28.6)
抗不安薬 (12例)	0	10 (83.3)	2 (16.7)	0	0	11 (91.7)	1 (8.3)
鎮痛薬 (20例)	1 (5.0)	17 (85.0)	2 (10.0)	1 (5.0)	1 (5.0)	17 (85.0)	1 (5.0)
鎮咳薬 (25例)	1 (4.0)	20 (80.0)	4 (16.0)	0	1 (4.0)	19 (76.0)	5 (20.0)
大麻 (10例)	2 (20.0)	6 (60.0)	2 (20.0)	1 (10.0)	3 (30.0)	3 (30.0)	3 (30.0)
その他 (14例)	0	9 (64.3)	5 (35.7)	0	1 (7.1)	9 (64.3)	4 (28.6)
多剤 (L) (61例)	7 (11.5)	46 (75.4)	8 (13.1)	2 (3.3)	8 (13.1)	42 (68.9)	9 (14.8)
多剤 (IL) (43例)	9 (20.9)	24 (55.8)	10 (23.3)	1 (2.3)	8 (18.6)	26 (60.5)	8 (18.6)
計910例 (100.0%)	200 (22.0)	487 (53.5)	223 (24.5)	48 (5.3)	193 (21.2)	457 (50.2)	212 (23.3)

表7 主たる薬物別にみた非行グループとの関係

主たる薬物別症例	薬物乱用前			薬物乱用後			
	あり 例数 (%)	なし 例数 (%)	不明 例数 (%)	過去にあったが			
				現在もあり 例数 (%)	現在はなし 例数 (%)	なし 例数 (%)	不明 例数 (%)
覚せい剤 (437例)	172 (39.4)	126 (28.8)	139 (31.8)	29 (6.6)	117 (26.8)	149 (34.1)	142 (32.5)
有機溶剤 (232例)	126 (54.3)	50 (21.6)	56 (24.1)	35 (15.1)	73 (31.5)	65 (28.0)	59 (25.4)
睡眠薬 (56例)	5 (8.9)	36 (64.3)	15 (26.8)	1 (1.8)	3 (5.4)	37 (66.1)	15 (26.8)
抗不安薬 (12例)	0	10 (83.3)	2 (16.7)	0	0	11 (91.7)	1 (8.3)
鎮痛薬 (20例)	2 (10.0)	17 (85.0)	1 (5.0)	1 (5.0)	1 (5.0)	17 (85.0)	1 (5.0)
鎮咳薬 (25例)	6 (24.0)	14 (56.0)	5 (20.0)	1 (4.0)	2 (8.0)	15 (60.0)	7 (28.0)
大麻 (10例)	5 (50.0)	4 (40.0)	1 (10.0)	2 (20.0)	3 (30.0)	3 (30.0)	2 (20.0)
その他 (14例)	1 (7.1)	8 (57.1)	5 (35.7)	1 (7.1)	0	9 (64.3)	4 (28.6)
多剤 (L) (61例)	9 (14.8)	36 (59.0)	16 (26.2)	1 (1.6)	5 (8.2)	40 (65.6)	15 (24.6)
多剤 (IL) (43例)	20 (46.5)	14 (32.6)	9 (20.9)	5 (11.6)	8 (18.6)	19 (44.2)	11 (25.6)
計910例 (100.0%)	346 (38.0)	315 (34.6)	249 (27.4)	76 (8.4)	212 (23.3)	365 (40.1)	257 (28.2)

## (8) 薬物乱用者との関係 (表8)

薬物乱用開始前に、全体の半数を超える症例がすでに他の薬物乱用者との関係があり、とくに「大麻症例」で80%と割合が高く、「有機溶剤症例」、「多剤 (IL) 症例」、「覚せい剤症例」が約60%でこれに次いでいた。乱用開始後も他の薬物乱用者との関係が引き続きみられる症例は全体の21.4%と減少するが、「有機溶剤症例」、「大麻症例」では約30%と高く、「覚せい剤症例」でも21%にみられた。

## (9) 医療従事者との関係 (表9)

医療従事者との関係は全体的に4~5%と低かった。乱用開始前には、「鎮痛薬症例」、「抗不安薬症例」、「睡眠薬症例」、「多剤 (L) 症例」などで14~20%前後と高かった。これらの症例では、何らかの精神症状に対して精神科的薬物療法を受けていたと思われる。この傾向は乱用開始後もほぼ同様に見られ、「多剤 (L) 症例」では乱用開始後に増加がみられた。

表8 主たる薬物別にみた薬物乱用者との関係

主たる薬物別症例	薬物乱用前			薬物乱用後			
	あり 例数 (%)	なし 例数 (%)	不明 例数 (%)	過去にあったが			
				現在もあり 例数 (%)	現在はなし 例数 (%)	なし 例数 (%)	不明 例数 (%)
覚せい剤 (437例)	267 (61.1)	47 (10.8)	123 (28.1)	92 (21.1)	148 (33.9)	76 (17.4)	121 (27.7)
有機溶剤 (232例)	146 (62.9)	41 (17.7)	45 (19.4)	76 (32.8)	64 (27.6)	45 (19.4)	47 (20.3)
睡眠薬 (56例)	7 (12.5)	32 (57.1)	17 (30.4)	3 (5.4)	2 (3.6)	32 (57.1)	19 (33.9)
抗不安薬 (12例)	0	9 (75.0)	3 (25.0)	0	0	10 (83.3)	2 (16.7)
鎮痛薬 (20例)	0	17 (85.0)	3 (15.0)	1 (5.0)	2 (10.0)	15 (75.0)	2 (10.0)
鎮咳薬 (25例)	12 (48.0)	11 (44.0)	2 (8.0)	3 (12.0)	8 (32.0)	10 (40.0)	4 (16.0)
大麻 (10例)	8 (80.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	3 (30.0)	4 (40.0)	1 (10.0)	2 (20.0)
その他 (14例)	3 (21.4)	6 (42.9)	5 (35.7)	2 (14.3)	2 (14.3)	7 (50.0)	3 (21.4)
多剤 (L) (61例)	13 (21.3)	35 (57.4)	13 (21.3)	8 (13.1)	2 (3.3)	36 (59.0)	15 (24.6)
多剤 (IL) (43例)	27 (62.8)	8 (18.6)	8 (18.6)	7 (16.3)	13 (30.2)	11 (25.6)	12 (27.9)
計910例 (100.0%)	483 (53.1)	207 (22.7)	220 (24.2)	195 (21.4)	245 (26.9)	243 (26.7)	227 (24.9)

表9 主たる薬物別にみた医療従事者との関係

主たる薬物別症例	薬物乱用前			薬物乱用後			
	あり 例数 (%)	なし 例数 (%)	不明 例数 (%)	過去にあったが			
				現在もあり 例数 (%)	現在はなし 例数 (%)	なし 例数 (%)	不明 例数 (%)
覚せい剤 (437例)	10 (2.3)	307 (70.3)	120 (27.5)	12 (2.7)	13 (3.0)	297 (68.0)	115 (26.3)
有機溶剤 (232例)	3 (1.3)	185 (79.7)	44 (19.0)	4 (1.7)	6 (2.6)	182 (78.4)	40 (17.2)
睡眠薬 (56例)	8 (14.3)	32 (57.1)	16 (28.6)	7 (12.5)	2 (3.6)	33 (58.9)	14 (25.0)
抗不安薬 (12例)	2 (16.7)	7 (58.3)	3 (25.0)	1 (8.3)	1 (8.3)	8 (66.7)	2 (16.7)
鎮痛薬 (20例)	4 (20.0)	15 (75.0)	1 (5.0)	4 (20.0)	0	15 (75.0)	1 (5.0)
鎮咳薬 (25例)	0	19 (76.0)	6 (24.0)	1 (4.0)	0	19 (76.0)	5 (20.0)
大麻 (10例)	0	9 (90.0)	1 (10.0)	0	0	7 (70.0)	3 (30.0)
その他 (14例)	2 (14.3)	7 (50.0)	5 (35.7)	2 (14.3)	0	8 (57.1)	4 (28.6)
多剤 (L) (61例)	8 (13.1)	39 (63.9)	14 (23.0)	12 (19.7)	1 (1.6)	38 (62.3)	10 (16.4)
多剤 (IL) (43例)	1 (2.3)	28 (65.1)	14 (32.6)	1 (2.3)	2 (4.7)	29 (67.4)	11 (25.6)
計910例 (100.0%)	38 (4.2)	648 (71.2)	224 (24.6)	44 (4.8)	25 (2.7)	636 (69.9)	205 (22.5)

(10) 補導・逮捕歴 (表10)

全体の約 25%が既に薬物乱用前に補導・逮捕歴があり、とくに「多剤 (IL) 症例」, 「覚せい剤症例」, 「有機溶剤症例」で 30%前後と高かった。乱用開始後では全体的に補導・逮捕歴が 50%を超え、とくに「覚せい剤症例」, 「有機溶剤症例」では 60%を超える高い割合を示し、「多剤 (IL) 症例」がこれに次いでいた。補導・逮捕に至った理由についての詳細は明らかでないが、主として薬物事犯として検挙されたものと思われる。

(11) 配偶関係 (表11)

各症例群の年齢分布の違いを考慮に入れなければならぬが、全体的には 50%余りが未婚で、「鎮咳薬症例」, 「有機溶剤症例」, 「多剤 (IL) 症例」で 70%を超えていた。また、既婚者の割合は「抗不安薬症例」, 「鎮痛薬症例」, 「睡眠薬症例」, 「その他症例」で 40~50%と高かった。既婚、離婚はともに 15~16%にみられた。離婚率は「覚せい剤症例」, 「大麻症例」, 「多剤 (L) 症例」で 20%前後と高かった。

表10 主たる薬物別にみた補導・逮捕歴

主たる薬物別症例	薬物乱用開始前			薬物乱用開始後		
	あり 例数 (%)	なし 例数 (%)	不明 例数 (%)	あり 例数 (%)	なし 例数 (%)	不明 例数 (%)
覚せい剤 (437例)	135 (30.9)	197 (45.1)	105 (24.0)	292 (66.8)	102 (23.3)	43 (9.8)
有機溶剤 (232例)	61 (26.3)	124 (53.4)	47 (20.3)	150 (64.7)	66 (28.4)	16 (6.9)
睡眠薬 (56例)	2 (3.6)	41 (73.2)	13 (23.2)	8 (14.3)	36 (64.3)	12 (21.4)
抗不安薬 (12例)	0	10 (83.3)	2 (16.7)	1 (8.3)	10 (83.3)	1 (8.3)
鎮痛薬 (20例)	1 (5.0)	18 (90.0)	1 (5.0)	3 (15.0)	15 (75.0)	2 (10.0)
鎮咳薬 (25例)	4 (16.0)	18 (72.0)	3 (12.0)	4 (16.0)	17 (68.0)	4 (16.0)
大麻 (10例)	1 (10.0)	8 (80.0)	1 (10.0)	4 (40.0)	6 (60.0)	0
その他 (14例)	1 (7.1)	11 (78.6)	2 (14.3)	2 (14.3)	10 (71.4)	2 (14.3)
多剤 (L) (61例)	7 (11.5)	42 (68.9)	12 (19.7)	13 (21.3)	41 (67.2)	7 (11.5)
多剤 (IL) (43例)	14 (32.6)	17 (39.5)	12 (27.9)	23 (53.5)	11 (25.6)	9 (20.9)
計910例 (100.0%)	226 (24.8)	486 (53.4)	198 (21.8)	500 (54.9)	314 (34.5)	96 (10.5)

表11 主たる使用薬物別の配偶関係

症例数	未婚	同棲	内縁	既婚	別居	離婚	死別	再婚	不明
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
覚せい剤 437	220 (50.3)	24 (5.5)	22 (5.0)	51 (11.7)	6 (1.4)	87 (19.9)	2 (0.5)	7 (1.6)	14 (3.2)
有機溶剤 232	165 (71.1)	10 (4.3)	3 (1.3)	17 (7.3)	4 (1.7)	31 (13.4)	0	0	1 (0.4)
睡眠薬 56	14 (25.0)	2 (3.6)	1 (1.8)	23 (41.1)	2 (3.6)	7 (12.5)	2 (3.6)	3 (5.4)	2 (3.6)
抗不安薬 12	6 (50.0)	0	0	5 (41.7)	0	1 (8.3)	0	0	0
鎮痛薬 20	5 (25.0)	1 (5.0)	0	10 (50.0)	1 (5.0)	3 (15.0)	0	0	0
鎮咳薬 25	20 (80.0)	0	0	3 (12.0)	0	2 (8.0)	0	0	0
大麻 10	6 (60.0)	1 (10.0)	0	1 (10.0)	0	2 (20.0)	0	0	0
その他 14	3 (21.4)	0	0	7 (50.0)	0	1 (7.1)	1 (7.1)	0	2 (14.3)
多剤 (L) 61	20 (32.8)	1 (1.6)	2 (3.3)	21 (34.4)	1 (1.6)	14 (23.0)	1 (1.6)	1 (1.6)	0
多剤 (IL) 43	32 (74.4)	3 (7.0)	1 (2.3)	2 (4.7)	1 (2.3)	4 (9.3)	0	0	0
計 910	491 (54.0)	42 (4.6)	29 (3.2)	140 (15.4)	15 (1.6)	152 (16.7)	6 (0.7)	11 (1.2)	19 (2.1)



表 1 2 主たる使用薬物の初回使用年齢

	主たる使用薬物												(計)		
	覚せい剤		有機溶剤		睡眠薬		抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬			大麻	
	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)		例数	(%)
10～14歳	7	(1.6)	80	(34.5)	0		0		1	(5.0)	0		0		88
15～19歳	151	(34.6)	126	(54.3)	2	(3.6)	1	(8.3)	4	(20.0)	10	(40.0)	4	(40.0)	298
20～24歳	111	(25.4)	12	(5.2)	9	(16.1)	2	(16.7)	2	(10.0)	5	(20.0)	4	(40.0)	145
25～29歳	60	(13.7)	2	(0.9)	9	(16.1)	3	(25.0)	2	(10.0)	5	(20.0)	1	(10.0)	82
30～34歳	31	(7.1)	1	(0.4)	8	(14.3)	1	(8.3)	1	(5.0)	0		1	(10.0)	43
35～39歳	10	(2.3)	1	(0.4)	5	(8.9)	0		0	(0.0)	0		0		16
40～44歳	7	(1.6)	0		3	(5.4)	0		0		0	(0.0)	0		10
45～49歳	3	(0.7)	1	(0.4)	4	(7.1)	1	(8.3)	5	(25.0)	0		0		14
50～54歳	0		0		2	(3.6)	0		1	(5.0)	0		0		3
55～59歳	0		0		4	(7.1)	1	(8.3)	0		0		0		5
60～64歳	0		0		2	(3.6)	0		1	(5.0)	0		0		3
65歳以上	0		0		0	(0.0)	0		0		0		0		0
不明	57	(13.0)	9	(3.9)	1	(1.8)	7	(58.3)	3	(15.0)	5	(20.0)	0		82
計	437	(100.0)	232	(100.0)	56	(100.0)	16	(100.0)	20	(100.0)	25	(100.0)	10	(100.0)	789
平均年齢(歳)	22.3±6.2		15.7±3.6		36.0±13.3		33.2±13.9		31.1±13.7		20.7±5.7		21.4±5.9		

(12) 主たる使用薬物の初回使用年齢  
(表12)

各「症例」群において、「主たる使用薬物」の初回使用の平均年齢をみると、「有機溶剤症例」が15.7歳と最も低年齢で薬物乱用を開始していた。次いで「鎮咳薬症例」、「大麻症例」、「覚せい剤症例」が平均で20~22歳と低かった。「睡眠薬症例」、「抗不安薬症例」、「鎮痛薬症例」では30歳代前半から半ばにかけて薬物使用を開始していた。ただし、睡眠薬や抗不安薬といった処方薬においては、治療として使用を開始した年齢が含まれていると考えられるため、これらがすべて「乱用」の開始年齢とはいえないだろう。

(13) 主たる使用薬物の使用期間 (表13)

「使用期間」は、最近1年間に薬物使用の既往がある場合には「年齢-初回使用年齢」(最近1年以内に使用している症例では、調査用紙に最終使用年齢についての記載を求めているため、最終使用年齢=調査時年齢とした)、最近1年間の使用がみられない場合には「最終使用年齢-初回使用年齢」として求めた。今回の質問項目では薬物使用をいったん中断した後の使用再開の情報は得られないため、あくまでも便宜的に算出した値である。各症例群における「主たる使用薬物」についての平均使用期間は、4.3~15.0年と幅広い範囲でみられた。「睡眠薬症例」、「抗不安薬症例」では平均5~6年であったが、「覚せい剤症例」、「有機溶剤症例」、「鎮痛薬症例」では9~15年という長期間にわたっていた。

表13 主たる使用薬物の使用期間 (記載のあった症例のみ)

	主 たる 使 用 薬 物													
	覚せい剤 (437例)		有機溶剤 (232例)		睡眠薬 (56例)		抗不安薬 (12例)		鎮痛薬 (20例)		鎮咳薬 (25例)		大 麻 (10例)	
	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)
1年未満	19	(5.7)	6	(2.8)	4	(8.3)	1	(12.5)	0		1	(5.0)	1	(12.5)
1~2年未満	35	(10.5)	17	(7.9)	6	(12.5)	2	(25.0)	1	(6.3)	2	(10.0)	1	(12.5)
2~3年未満	21	(6.3)	5	(2.3)	3	(6.3)	0		0		0		2	(25.0)
3~4年未満	32	(9.6)	11	(5.1)	5	(10.4)	0		0		0		1	(12.5)
4~5年未満	16	(4.8)	10	(4.7)	3	(6.3)	0		1	(6.3)	3	(15.0)	0	
5~10年未満	73	(21.9)	41	(19.1)	17	(35.4)	4	(50.0)	1	(6.3)	8	(40.0)	2	(25.0)
10~15年未満	56	(16.8)	55	(25.6)	5	(10.4)	0		7	(43.8)	4	(20.0)	0	
15~20年未満	39	(11.7)	40	(18.6)	4	(8.3)	1	(12.5)	2	(12.5)	0		1	(12.5)
20~25年未満	28	(8.4)	21	(9.8)	0		0		2	(12.5)	2	(10.0)	0	
25~30年未満	10	(3.0)	7	(3.3)	0		0		1	(6.3)	0		0	
30~35年未満	1	(0.3)	1	(0.5)	1	(2.1)	0		0		0		0	
35年以上	3	(0.9)	1	(0.5)	0		0		1	(6.3)	0		0	
計	333	(100.0)	215	(100.0)	48	(100.0)	8	(100.0)	16	(100.0)	20	(100.0)	8	(100.0)
平均±SD (年)	9.2±7.9		11.1±7.0		6.4±5.8		5.0±5.1		15.0±9.5		7.7±6.2		4.3±4.8	

## (14) 主たる使用薬物の中断期間 (表14)

主たる使用薬物の最終使用時から調査時までの期間を表14に「中断期間」として示した。最近1年以内に薬物使用があれば「0年」とし、最近1年以内の使用がみられない場合には「年齢-最終使用時(断薬)年齢」によって求めた。「覚せい剤症例」では、平均で3.4年と最も中断期間が長く、「覚せい剤症例」、「有機溶剤症例」では記載のあった症例の40%以上で中断期間が既に5年以上であり、長期間にわたってそれぞれ覚せい剤、有機溶剤の使用がなかった。「抗不安薬症例」ははじめ処方薬を主たる使用薬物とする症例群では中断1年未満の割合が50%以上と高く、全般的に最も最近の中断期間は短期間であった。

## (15) 併用薬物 (表15)

各「症例」群において「主たる使用薬物」以外でこれまでに用いたことのある薬物について表15に示した。「有機溶剤症例」では、75.4%と3/4が有機溶剤単独の使用者であり、最も高い割合を示した。「覚せい剤症例」では半数が単独使用であり、1/3には有機溶剤の使用歴がみられた。「多剤(L)症例」では、睡眠薬、抗不安薬、鎮痛薬の併用が多くみられ、一方「多剤(IL)症例」では覚せい剤、有機溶剤の併用が2/3以上の高い割合でみられた。

表14 主たる使用薬物の使用中断期間 (記載のあった症例のみ)

	主 たる 使 用 薬 物													
	覚せい剤 (437例)		有機溶剤 (232例)		睡眠薬 (56例)		抗不安薬 (12例)		鎮痛薬 (20例)		鎮咳薬 (25例)		大麻 (10例)	
	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)
1年未満	6	(3.0)	6	(9.5)	6	(54.5)	6	(85.7)	6	(66.7)	6	(66.7)	6	(54.5)
1~2年未満	22	(11.1)	14	(22.2)	2	(18.2)	0		1	(11.1)	2	(22.2)	1	(9.1)
2~3年未満	45	(22.7)	10	(15.9)	0		0		0		1	(11.1)	1	(9.1)
3~4年未満	23	(11.6)	1	(1.6)	1	(9.1)	0		1	(11.1)	0		0	
4~5年未満	15	(7.6)	5	(7.9)	0		0		1	(11.1)	0		2	(18.2)
5~10年未満	34	(17.2)	16	(25.4)	2	(18.2)	1	(14.3)	0		0		0	
10~15年未満	26	(13.1)	8	(12.7)	0		0		0		0		1	(9.1)
15~20年未満	23	(11.6)	1	(1.6)	0		0		0		0		0	
20~25年未満	3	(1.5)	0		0		0		0		0		0	
25~30年未満	1	(0.5)	2	(3.2)	0		0		0		0		0	
30~35年未満	0		0		0		0		0		0		0	
35年以上	0		0		0		0		0		0		0	
計	198	(100.0)	63	(100.0)	11	(100.0)	7	(100.0)	9	(100.0)	9	(100.0)	11	(100.0)
平均±SD (年)	3.4±5.2		1.5±4.0		0.4±1.6		0.7±2.4		0.4±1.1		0.2±0.5		2.9±3.8	

表15 主たる使用薬物別にみた併用薬物（複数回答）

主たる使用薬物	併 用 薬 物										
	なし	覚せい剤	有機溶剤	睡眠薬	抗不安薬	鎮痛薬	鎮咳薬	大 麻	コカイン	ヘロイン	その他
覚せい剤 (437例)	222 (50.8%)	—	157 (35.9%)	30 (6.9%)	13 (3.0%)	14 (3.2%)	12 (2.7%)	59 (13.5%)	26 (5.9%)	9 (2.1%)	17 (3.9%)
有機溶剤 (232例)	175 (75.4%)	33 (14.2%)	—	7 (3.0%)	5 (2.2%)	3 (1.3%)	4 (1.7%)	14 (6.0%)	2 (0.9%)	1 (0.4%)	3 (1.3%)
睡眠薬 (56例)	32 (57.1%)	6 (10.7%)	3 (5.4%)	—	10 (17.9%)	4 (7.1%)	3 (5.4%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)	1 (1.8%)	1 (1.8%)
抗不安薬 (12例)	8 (66.7%)	0	0	4 (33.3%)	—	2 (16.7%)	1 (8.3%)	0	0	0	0
鎮痛薬 (20例)	8 (40.0%)	1 (5.0%)	3 (15.0%)	6 (30.0%)	5 (25.0%)	—	1 (5.0%)	1 (5.0%)	0	0	1 (3.6%)
鎮咳薬 (25例)	8 (32.0%)	7 (28.0%)	5 (20.0%)	6 (24.0%)	1 (4.0%)	4 (16.0%)	—	6 (24.0%)	1 (4.0%)	0	2 (8.0%)
大麻 (10例)	3 (30.0%)	3 (30.0%)	1 (10.0%)	2 (20.0%)	1 (10.0%)	0	0	—	0	0	1 (10.0%)
その他 (14例)	7 (50.0%)	2 (14.3%)	2 (14.3%)	3 (21.4%)	3 (21.4%)	2 (14.3%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	—
多剤 (I) (61例)	—	8 (13.1%)	6 (9.8%)	43 (70.5%)	41 (67.2%)	29 (47.5%)	10 (16.4%)	2 (3.3%)	2 (3.3%)	0	14 (23.0%)
多剤 (II) (43例)	—	37 (86.0%)	29 (67.4%)	11 (25.6%)	5 (11.6%)	7 (16.3%)	9 (20.9%)	10 (23.3%)	7 (16.3%)	2 (4.7%)	3 (7.0%)
計 (910例)	463 (50.9%)	52 (5.7%)	171 (18.8%)	58 (6.4%)	38 (4.2%)	29 (3.2%)	23 (2.5%)	82 (9.0%)	30 (3.3%)	12 (1.3%)	39 (4.3%)